

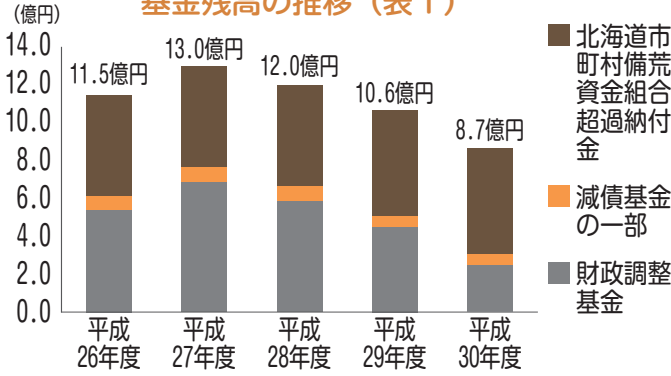
市の預金や
借金の状況

市の預金（基金）

市は、財源の調整を図ったり、特定の事業に使用するための、さまざまな基金を積み立てています。

このうち、自由に使うことができず基金などは、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、これらの平成30年度末の残高は、収入の不足分を補うために、財政調整基金の取り崩しを行ったため、前年度に比べ1.9億円減の8.7億円となりました（表1）。

基金残高の推移（表1）



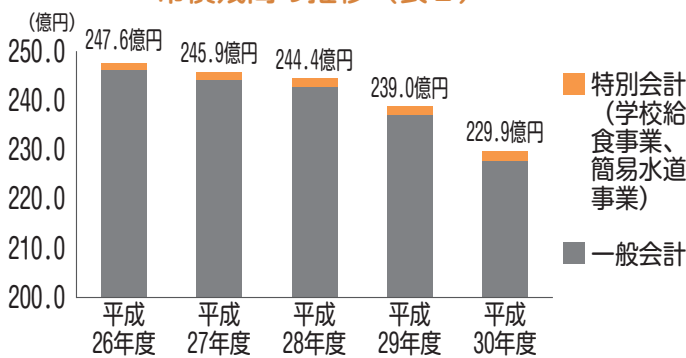
市の借金（市債）

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設などを整備するときに、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらを市債といいます。

平成30年度末の市債残高は、消防車両の更新のために借り入れた資金の一部について、元金の返済が始まったことなどから、前年度に比べ9.1億円の減少となりました（表2）。

なお、一般会計における公債費（借金の返済額）については、26・6億円となり、支出全体に占める割合は12・8％で、前年度に比べ0.6億円の増加となりました。

市債残高の推移（表2）



令和元年度の予算

令和元年度の一般会計当初予算では、221・2億円の支出に対して、216・2億円の収入しか見込めず、5億円の財源不足が生じています。

この財源不足については、全額を基金などの取り崩しで対応する予定であり、今後、財政が好転せず、財源不足が解消されない場合には、令和元年度末の基金残高は3.7億円まで減少することとなります。

令和元年度の財政運営にあたっては、適切に収入を確保することはもちろん、不要な支出がないか、これまで以上にチェックを重ねるなど、限られた財源の有効活用を図っていきます。

今後についても、高齢化の進展などによる社会保障費の増加に加え、消防支署新庁舎の建設や消防本部・本署の建て替え、老朽化した公共施

設の整備、インフラの長寿命化など、さまざまな事業が控えており、多くのお金が必要となります。

また、市民の皆さんから納めていただく税金は、人口の減少が進んでいることから、今後大きく増加することは見込めず、国から交付される地方交付税についても、国の動向によっては減少する可能性もあり、市を取り巻く環境は、いっそう厳しさを増すことが予想されます。

市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供しながら、必要性の高い大型事業に順次取り組むため、事業の効率性を常に検証し、改善していくとともに、社会情勢や時代の変化などにより不要となったサービスの見直しを図るなど、計画的で健全な財政運営が図られるよう努めます。

解説します



なぜ利子を払ってまで借金をするのかというと、道路や建物の整備には多額の費用がかかるため、建設時の市民だけでは大きな負担となってしまうほか、その他の事業が何もできなくなってしまうからです。

道路や建物など、長い間使うものは、将来の世代の人たちにも公平に負担していただく必要があります。

